

国際医療福祉大学大学院

保健・医療・福祉専門職のキャリアアップを支援

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい本学大学院の特長

全国7都市（栃木県大田原市・千葉県成田市・東京都港区・神奈川県小田原市・静岡県熱海市・福岡県福岡市・福岡県大川市）にキャンパスを展開する国際医療福祉大学大学院は、平日の夕方以降や土日祝日に授業を集約したカリキュラムとさまざまなICT教育ツールにより、全国の社会人の学びを支援しています。



ICT教育ツール

- 1 居住地に近いどのキャンパスでも臨場感あふれる映像・音声で受講できる、同時双方向遠隔授業システム
- 2 自宅など、どこからでも手軽に授業や研究指導を受けられる、Webコミュニケーションツール
- 3 通勤・休憩時間など、いつでもどこでも自分の都合に合わせて学修できる、eラーニングシステム
- 4 多数のコンテンツで保健・医療・福祉を幅広く学べる、VODライブラリー

医療福祉学研究科

修士課程

- 保健医療学専攻**
- 看護学分野
 - 特定行為看護師養成分野 (旧: ナースプラクティショナー養成分野)
 - 助産学分野
 - 理学療法学分野
 - 作業療法学分野
 - 言語聴覚分野
 - 視機能療法学分野
 - 福祉支援工学分野
 - リハビリテーション学分野
 - 放射線・情報科学分野
 - 生殖補助医療胚培養分野
 - 医療福祉教育・管理分野
- **臨床検査学分野**
- 災害医療分野
 - 遺伝カウンセリング分野
 - 医療機器イノベーション分野
- 医療福祉経営専攻**
- 医療経営管理分野
 - 診療情報アナリスト養成分野
 - 医療福祉国際協力学分野
 - 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
 - 医療福祉学分野
 - 医療福祉ジャーナリズム分野
 - 医療通訳・国際医療マネジメント分野
- **臨床心理学専攻**

博士課程

- 保健医療学専攻**
- 看護学分野
 - 助産学分野
 - 理学療法学分野
 - 作業療法学分野
 - 言語聴覚分野
 - 視機能療法学分野
 - 福祉支援工学分野
 - リハビリテーション学分野
 - 放射線・情報科学分野
 - 生殖補助医療胚培養分野
 - 医療福祉教育・管理分野
 - **臨床検査学分野**
 - 災害医療分野
- 医療遺伝学分野
 - 医療福祉経営学分野
 - 診療情報管理・分析学分野
 - 医療福祉国際協力学分野
 - 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
 - 医療福祉学分野
 - 医療福祉ジャーナリズム分野
 - 臨床心理学分野

薬学研究科

博士課程 (4年制)

医療・生命薬学専攻

薬科学研究科

修士課程 (2年制)

生命薬科学専攻

- 生命薬学分野
- 医療薬学分野

医学研究科

博士課程

医学専攻

- 基礎医学研究分野
- 臨床医学研究分野
- 社会医学研究分野

修士課程

公衆衛生学専攻

- 国際医療学分野
- 疫学・社会医学分野
- 医療福祉管理学分野
- 予防医学分野

大学院に関するお問い合わせ

東京赤坂キャンパス事務部

Tel : 03-5574-3900 〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26

学生募集要項は次のいずれかの方法でご請求ください

Tel 03-5574-3903

E-mail daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp

HP



国際医療福祉大学

- 大田原キャンパス
 - 保健医療学部：看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科、放射線・情報科学科
 - 医療福祉学部：医療福祉・マネジメント学科
 - 薬学部：薬学科 (6年制)
- 成田キャンパス
 - 医学部：医学科
 - 成田看護学部：看護学科
 - 成田保健医療学部：理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科、放射線・情報科学科
 - 臨床工学特別専攻科 (1年制)
 - 介護福祉特別専攻科 (2年制) ※2023年4月開設予定

- 東京赤坂キャンパス
 - 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部：心理学科、医療マネジメント学科
- 小田原キャンパス
 - 小田原保健医療学部：看護学科、理学療法学科、作業療法学科
- 大川キャンパス
 - 福岡保健医療学部：理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科
 - 福岡薬学部：薬学科 (6年制)

国際医療福祉大学 附属病院

- 国際医療福祉大学病院 (栃木県)
- 国際医療福祉大学塩谷病院 (栃木県)
- 国際医療福祉大学成田病院 (千葉県)
- 国際医療福祉大学市川病院 (千葉県)
- 国際医療福祉大学三田病院 (東京都)
- 国際医療福祉大学熱海病院 (静岡県)

国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

GUIDEBOOK

臨床検査学分野

医療福祉学研究科 保健医療学専攻

■ 修士課程

- 先端医学検査コース
- 細胞検査士養成コース

■ 博士課程

- 先端医学検査コース



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

ごあいさつ

臨床検査は科学技術の飛躍的發展に伴い、ますます高度化、先鋭化し、多くの疾患に対して先進的な臨床検査技術が導入されています。臨床検査学分野の修士・博士課程では、人々の健康を守り、より安全で質の高い医療を実現するために、臨床検査学講義・演習を通じ、現状の検査知識および技術を学ぶと共に、次世代に必要とされる検査法や機器・試薬の開発など、多方面からの研究を行なうことで研究的思考を兼ね備えた人材の育成を目指しております。従いまして、学位名称も臨床検査学領域に特化した“臨床検査学修士・博士”と致しました。

さらに、キャンパス間やグループ病院などと連携し、最先端の臨床検査学における臨床的・基礎的な研究に取り組むための整備、大学院の教育理念をふまえた体制により、社会人でも安心して学べる環境になっています。

修士課程では、“先端医学検査コース”と“細胞検査士養成コース（2022年度より成田キャンパスにも開講）”の2コースを成田と大川キャンパスに設置しています。

成田キャンパス

細胞検査士養成コースを新設！

成田キャンパスにも臨床検査学領域先端医学検査コース（修士・博士）に加え、2022年より細胞検査士養成コース（修士）を新設しました。臨床検査学・医学の知識・技術や科学的方法論に基づく高度で国際的視野に立脚した教育研究を実践し、臨床検査（医）学領域の確立と発展にグローバルに貢献できる人材の育成をめざします。また、大学院担当教員の課題研究以外にも可能な限り柔軟に対応しますので、気軽にお問合せください。社会人の方も多く在籍し、社会に開かれた教育カリキュラムになっています。幅広い領域・分野で活躍でき未来を託せる人材育成を心がけて教育研究指導しています。



研究室のカンファレンス風景

教員・大学院生と週に2回カンファレンス（論文抄読会と研究内容報告会）を実施しています。海外の最新研究・知識の紹介や各自の研究内容に関するディスカッションを定期的に行い親身な研究指導を実施しています。また、外部の先生の講演もいただき幅広い知識が修得できる環境を整備しています。



大川キャンパス

臨床検査スキルを支援！

大川キャンパスには臨床検査学領域先端医学検査コース（修士・博士）と細胞診検査を目指す細胞検査士養成コース（修士）があります。共に臨床経験の豊富な教員が臨床検査学の知識や技術、高度な科学論法に基づく教育を実践しながら臨床検査に貢献できる人材の育成に努めます。

学位修得の道が開かれた！

4年生大学卒業以外でも臨床検査技師の資格を有する方であれば臨床検査学分野の学位（修士・博士）を修得することができます。指導教員は可能な限り社会人の方でも自施設で専門とする検査領域でのキャリアアップを支援するため丁寧・熱心に指導いたします。



高木病院内 臨床微生物・遺伝子検査研究センター

担当教員紹介・研究課題一覧

キャンパス	教員	研究課題
成田	長沢 光章 教授	●Lamp法による迅速薬剤耐性菌検出に関する研究 ●サーベイランスにおける疫学解析の研究 ●質量分析を用いた迅速同定、感受性検査に関する研究
	竹内 啓晃 教授	●感染症（主にヘリコバクターピロリ関連疾患）の病態解析 ●トランスレーショナル医学研究（ベンチワーク～生体効果） ●海洋資源の利活用（シーズ探索～感染制御）
	清宮 正徳 教授	●臨床化学・免疫学分野における異常反応の研究 ●臨床化学・免疫学分野における検査値保証の研究 ●高感度測定法の開発 ●新規腫瘍マーカーの開発
	梅宮 敏文 特任教授	●培養細の形態および細胞骨格に対する重合阻害剤の影響
大川	永沢 善三 教授	●薬剤耐性菌の迅速検出法とメカニズム解析 ●Microwaveを利用した迅速染色法の研究 ●質量分析での迅速同定法と疫学解析への応用 ●抗菌薬の微生物に対する抗菌活性の比較研究
	梅村 創 教授	●疾患バイオマーカーとしてのmicroRNA研究 ●貧血疾患の遺伝子に関する研究
	廣岡 良隆 教授	●高血圧 ●心不全 ●神経体液性因子による循環調節
	小荒田 秀一 教授	●難治性自己免疫疾患に対するRP105陰性形質芽B細胞を標的とした新規治療法の開発 ●関節エコーによる膠原病・リウマチ性疾患の評価と予後予測を目的とした解析 ●膠原病リウマチ系疾患の調査・画像解析による総合的診断法の樹立

キャンパス	教員	研究課題
大川	太田 昭一郎 教授	●免疫細胞の接着機構の研究 ●機能的モノクローナル抗体の開発 ●炎症・アレルギー疾患におけるバイオマーカーの研究
	佐藤 謙一 准教授	●赤外スペクトル解析法による血中成分測定 ●ゲノム医療における臨床検査に適した遺伝子解析法の開発 ●新興感染症におけるバイオマーカーとしての少分子RNA発現変動に関する研究 ●ポストコロナ期のPCR機器有効活用に関する研究
	矢口 貴博 准教授	●Development of anti-dementia drug against neurodegenerative diseases such as Alzheimer disease ●Role of ATP released from astrocyte cells during ischemia ●Analysis of PDGF-D-induced cell migration mechanism in malignant mesothelioma cells ●Role of ABCG2 transporter on malignancy of endometrial cancer cells ●Role of progesterone receptor on malignancy of endometrial cancer cells

2022年8月現在

各キャンパスの教育内容に関するご相談は
太字の教員までお問い合わせください。

在学生・修了生の声



磯部 厚志 さん 成田キャンパス：2021年 博士課程修了、大学院賞受賞、現職：テルモ株式会社 技術統括室

私は、研究を行う力を養い、臨床検査学や社会に役立つ新しい知見を発表できる人材となるべく、大学院に進学しました。大学院で学ぶことにより、課題やその解決策を自らで考える力が身に付き、成長に繋がったと感じています。現職においても、誰もが遭遇したことのない新たな課題に直面しますが、大学院で学んだ自らで考える力が活かされています。



谷島 実希 さん 成田キャンパス：2022年 修士課程修了、現職：HIROTSU バイオサイエンス

学部卒業後、再生医療分野に繋がる研究に携わりたいと考え大学院に進学しました。私は大学院から染色体・遺伝子研究室に所属したため、その分野での研究に関しては初心者でありましたが、指導教官とゼミメンバーに実験器具の使い方、PCR法等の解析方法など懇切丁寧に指導していただくことで、充実した学生生活を送ることができました。本院の魅力は先生たちと随時細かい相談をすることができ、他分野の先生方からもアドバイスをいただけることだと思います。



横山 翼 さん 大川キャンパス：2022年 修士課程修了、博士課程在学、現職：ベックマン・コールター株式会社

私は医療機器メーカーの学術として働いており、仕事の担当分野についてより知識を深めたいと考え大学院へ進学しました。入学当初は仕事との両立や研究がうまく行かなくなどの不安がありましたが、先生方の温かいご指導により修士号を修了することが出来ました。研究を通じて得た知識で顧客とより深い話ができるようになるなど仕事にも大変役立ち、日々自身の成長を感じられた充実感のある2年間でした。

カリキュラム

修士課程

● 先端医学検査コース

履修方法	授業科目の区分	最低単位数		備考
		必修	選択	
	共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位) 必修
	専門科目	16単位		「臨床検査学講義(修士)I・II」(各2単位) 「臨床検査学演習(修士)I・II」(各2単位) 「臨床検査学研究指導(修士)I・II・III・IV」(各2単位) 計16単位必修
	小計	18単位	12単位以上	
	合計	30単位以上		

※選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目(履修制限のないもの)の中から選択して履修できる。

修了要件 上記30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

● 細胞検査士養成コース

履修方法	授業科目の区分	最低単位数		備考
		必修	選択	
	共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位) 必修
	専門科目	16単位		「臨床検査学講義(修士)I・II」(各2単位) 「臨床検査学演習(修士)I」(2単位) 「細胞診断検査学特論I・II」(各2単位) 「細胞診断検査学実習I・II」(各1単位) 「細胞診断検査学課題研究I・II」(各2単位) 計16単位必修
	小計	18単位	12単位以上	
	合計	30単位以上		

※選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目(履修制限のないもの)の中から選択して履修できる。

修了要件 上記30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

博士課程

● 先端医学検査コース

履修方法	授業科目の区分	最低単位数		備考
		必修	選択	
	共通科目	2単位	-	「研究倫理特論」(2単位) 必修
	専門科目	10単位		「臨床検査学講義(博士)」(2単位) 「臨床検査学演習(博士)」(2単位) 「臨床検査学研究指導(博士)I・II・III」(2単位) 計10単位必修
	小計	12単位	-	
	合計	12単位以上		

※選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。

修了要件 上記12単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。